

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	159人	国語B	159人
② 数学A	159人	数学B	159人

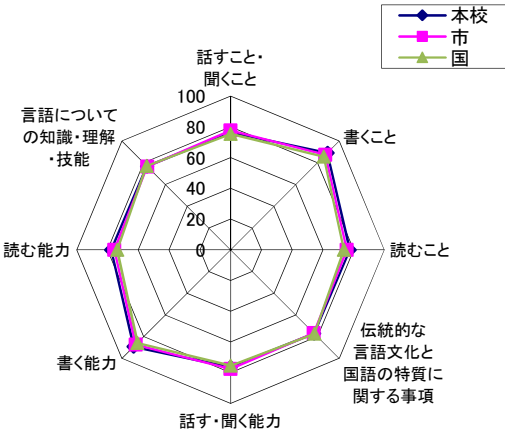
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

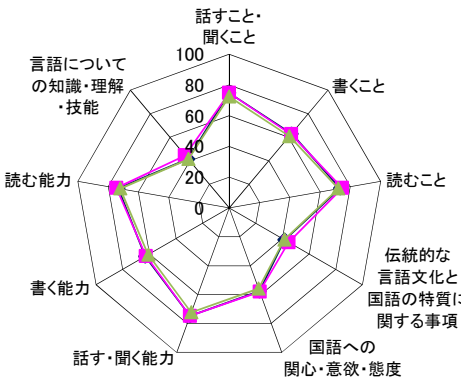
★本年度の国、市と本校の状況
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.4	77.6	75.4
	書くこと	89.2	87.3	85.7
	読むこと	77.6	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.9	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	76.4	77.6	75.4
	書く能力	89.2	87.3	85.7
	読む能力	77.6	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	76.9	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.8	74.8	72.4
	書くこと	63.1	62.6	60.8
	読むこと	73.3	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	41.5	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	57.7	58.0	55.9
	話す・聞く能力	74.8	74.8	72.4
	書く能力	63.1	62.6	60.8
	読む能力	73.3	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	41.5	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

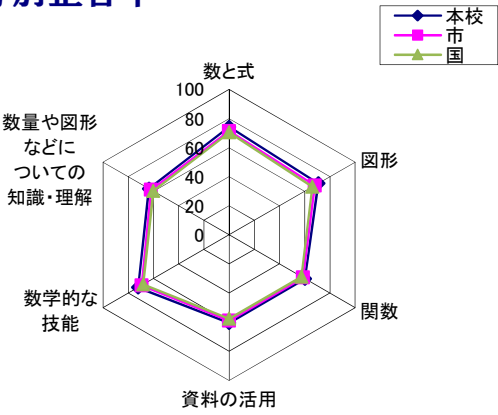
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」問題では、全国の正答率が87.8%だったのに対し、本校では89.9%と2.1ポイント上回っている。 ●「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」問題では、全国の正答率が54.0%だったのに対し、本校は50.9%と3.1ポイント下回っている。	聞き手を想定した資料の選択や、表現の工夫を意識してスピーチをする機会を多く設けていく。さらに、相互評価することによって、実際にどのような効果を生んだのかを振り返る機会を同時に設けていきたい。また、適切な語句を選ぶようにするために、授業中に国語辞書を用いるなどして語彙力を増やせるようにする。
書くこと	○「文章の構成の構成を工夫して分かりやすく書く」問題では、全国の正答率が79.8%だったのに対し、本校は83.0%と3.2ポイント上回っている。	文章を書く機会を増やしたことにより、自分の考えを具体的に書く力が身についてきた生徒が多い。理由や根拠を明確にして書く機会や授業を今後も継続して設けていく。更に今後は、明確な反対意見や説得力の高い根拠を挙げることによって、読み手を納得させるような文章を書く活動を増やしていく。
読むこと	○「文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広げる」問題では、全国の正答率が72.3%だったのに対し、本校は81.1%と8.3ポイント上回っている。	問われている内容を文章中から抜き出す力は身に付いてきている。しかし、段落や文章全体の要点を捉えながら読む力が身に付いていない。そのため、接続表現などに着目し、要点をまとめながら読むことによって、文章を論理的に読む力を身につけていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きにおいては、ほとんどの問題で全国の平均を上回っている。 ●「古典には様々な種類の作品がある」問題では、全国の正答率が78.5%だったのに対し、66.0%と12.5ポイント下回っている。	日常的に使う漢字の読み書きについては今後も継続して学習させたい。古典の授業で様々な作品に触れているが、どのような分野の作品であるか、きちんと学ばせる必要がある。また、普段書いている文字の種類を把握していない生徒もいるので、書写の授業でしっかりと文字の種類について学ばせたい。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

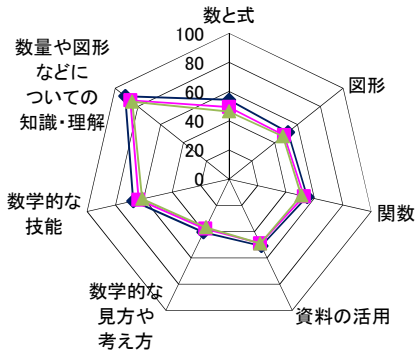
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	74.2	71.4	70.4
	図形	70.7	67.9	66.0
	関数	60.2	58.6	57.4
	資料の活用	60.4	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	72.2	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	63.6	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	54.3	49.4	46.3
	図形	51.6	48.3	47.1
	関数	54.9	52.7	50.8
	資料の活用	50.9	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	40.5	37.8	36.8
	数学的な技能	67.5	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	91.2	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○ほとんどの設問に関して全国・県平均を上回り、概ね良好である。 ●与えられた文字式の意味を具体的事象の中から読み取る問題のみ全国・県平均を下回り、無回答率も平均より高かった。	反復学習を3年間続けてきた成果が見られたと感じるので、今後も同様に反復学習を行いたい。ペア学習なども有効だと感じる。 平均を下回った問題については文章の読み取りで正答率が下がっていると考えられる。教科書を活用し、重要語句には線を引くなど読み取る力を身に付けさせたい。
図形	○空間において与えられた辺に平行な面を答える問いは正答率が全国・県平均より10ポイント以上上回った。 ○三角形の合同を利用して2つの角の大きさが等しいことを証明する問いは正答率が全国・県平均より10ポイント以上上回った。 ●見取り図から線分の長さの関係を読み取ること、点が動いたときの角の大きさの変化を問われる問題の正答率は全国平均を下回った。	図形の軽量や図形の性質などを証明することは考え方をスモールステップで指導していくことにより、更に定着度を高めさせたい。 立体模型やICTを活用することにより、視覚的な理解を深めたい。
関数	○比例の式でxの値からyの値を求める問題については正答率が86.8%と良好であった。 ○一次関数の傾きと切片から式を求める問題は正答率が83.0%で全国・県平均を上回った。 ●「…は…の関数である」という形で表現すること、表から変化の割合を求める問題の正答率が全国・県平均を下回った。	関数について知識・理解に関する事柄を授業でくり返し取り上げ定着させていきたい。また、グラフ、表、式について基本的な内容を理解している生徒は多いが、関連づけた問題を苦手としている。これらに関連づけた問題を扱い、更に説明する力も身に付けさせたい。
資料の活用	○「相対度数を求めること」「確率を求めること」など数学的な技能を問う問題は全国・県平均を上回った。 ○資料から必要な情報を適切に読み取る内容においては全国・県平均を上回っている。 ●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することの正答率が全国・県平均を下回った。	身近な資料を活用し、数学的な表現を用いて説明できるようにさせたい。そのために言語活動を授業で取り入れたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習に関する問い全般で肯定的な回答が多くみられ、前向きに学習に取り組もうとする姿勢がうかがえる。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の問いに、本校は肯定的な回答が64.6%に対して、県では49.7%、全国では50.5%となっており、本校が県や全国の回答を大幅に上回る結果となった。言語活動を積極的に取り入れる授業の実践を継続してきた成果であると考えられ、さらに自分の考えが深められるよう丁寧に今後も指導していきたい。

○「家で、学校の宿題をしていますか」という問いに、本校は肯定的な94.4%に対して、県では90.5%、全国では89.5%となっており、本校がやや上回る結果となった。毎日の家庭学習の定着につながっていると考えられ、このことは「学校の授業時間以外にも、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」という問いに、1時間以上という回答が本校では79.5%、県では73.7%、全国では69.6%という結果から見るができる。

●「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」という問いに、本校は肯定的な回答が53.5%、県では60.9%、全国では62.5%、「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」という問いに、本校は肯定的な回答は50.3%、県では61.2%、全国では62.8%と、いずれも県や全国を下回っている。文章を書き、言葉で表現するということに苦手意識を持つ生徒が多く、国語の時間だけでなく、学校生活の様々な場面で「書く力」をつけていくことが今後の大きな課題である。

○生活に関する問い全般でも肯定的な回答が多くみられ、前向きに楽しい学校生活を送ることができている様子がうかがえる。

○「朝食を毎日食べていますか」の問いに、本校では「している」という回答が87.6%、県では84.5%、全国では82.7%となっており、本校が県や全国の回答を上回っている。しかし、本校では12.4%が毎日ではないという回答であり、健康管理の面からも朝食の重要性を指導していく必要がある。

●「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の問いに、「あまり守っていない」「守っていない」「約束はない」という回答が、本校では17.3%、県では20.7%、全国では29.3%と県や全国よりは低いものの、情報モラルに触れる機会を増やし、正しい知識を持たせるよう指導していきたい。

●部活動の参加に関しては、本校では「運動部に参加している」という回答が60.9%、県では71.3%、全国では66.7%となっており、運動部参加率が低い。逆に文化部参加率は27.3%と高い。しかし、「部活動に参加していない」という回答が11.8%と県の7.2%を大幅に上回っている。部活動加入率を高め、活気のある学校になるよう、部活動の指導に力を注いでいきたい。

宇都宮市立横川中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的事項の定着を図る「わかる授業」の展開	各教科において、基礎的・基本的事項の定着のため、小テストなどによる反復学習を行っている。また、授業ではTTや習熟度別学習を取り入れ、放課後学習相談も年25回実施している。	国語Aにおいては、「書くこと」「読むこと」の領域において、国平均・市平均を上回っている。 数学Aにおいては、すべての領域において、国平均・市平均を上回っている。 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいか」の肯定的回答が、85.1%で、国・市の肯定的回答を上回っている。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実	全教科において、「見せ合い授業」などを行い、学年や各教科各単元に応じて、言語活動の充実のための授業を展開している。	国語Bにおいては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、国平均・市平均を上回っている。 数学Bにおいては、すべての領域において、国平均・県平均を上回っている。 また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか」の肯定的回答が国・県平均を上回っている。
家庭学習の充実	各学年で、自主学習ノートを使用して、自主学習を毎日行うように指導を行っている。	「家で、学校の宿題をしていますか」の肯定的回答が、94.4%、「家で、学校の授業の予習をしていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答が、国・県の肯定的回答を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答が、63.3%である。	自主学習の内容の改善	家庭学習の改善に取り組ませしていく必要がある。各教科、各単元を計画的に取り組めるよう課題を工夫したい。
各教科で単元に応じて、効果的な言語活動が充実するような授業の工夫を行っているが、生徒は友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意と思っている生徒が64.6%である。	話し合いや発表の仕方の工夫や改善	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことはできている生徒が、93.1%である。話し合い活動を通して、その都度生徒が自信をもてるように助言したり、ほめたりする指導をしていきたい。